



司法書士  
**柿崎 啓子**  
KAKIZAKI KEIKO

1977年 柏崎市出身  
2011年 司法書士資格取得

昨年立ち上がった「はじめの一步」という地域団体をご存じだろうか。柏崎市在住の司法書士、防災士、看護師など様々な資格を持った女性4人が始めた活動で、それぞれが持つ豊富な知識やスキル、役に立つ情報を提供しながら女性が新しい一歩を踏み出すきっかけ作りをしていこうというもの。

司法書士として活躍する柿崎啓子さんもそのメンバーの一人。柿崎さんはコーチングやファシリテーションなど仕事のスキルアップのために様々なセミナーに参加していた際、あるセミナーで偶然知り合ったメンバーと意気投合し「お互いのスキルを持ち寄り一緒に何かできたらいいねと、はじめの一步がスタートした」経緯を教えてくれた。

柿崎さんの仕事である司法書士とは、一般市民や企業からの依頼を受け、土地や建物の不動産登記や商業登記、相続手続き、債務処理を始め、裁判事務、成年後見業務などを行う国家資格。柿崎さんが、法律に関わる専門職である司法書士の資格を取得したのは30代。実はファイナンシャルプランナーの資格を持ち20代の頃は保険会社で働いていたという。

父は司法書士、母は行政書士という環境で育った柿崎さんは「やはり心のどこかで両親の仕事を意識していたのかもしれない」と、大学では法学部で学んだことを振り返る。

30代になり父に勧められて、両親が営む事務所で働きながら司法書士の実務を学んだ。勉強を重ねた柿崎さんは3年後見事に資格を取得。現在は中村・柿崎司法書士事務所での仕事の他、法的トラブルに関して第三者（調停人）が間に入り当事者同士の話し合いにより解決に導くADR（民間調停）の「新潟県司法書士会話し合いサポートセンター」での事務長、さらにADRのトレーニングを通じて仲間と立ち上げた研究会「司法書士による対話促進ネットワークhoahoa」では講師やファシリテーターを行うなど忙しい日々を過ごしている。

そして新しく始めた冒頭の「はじめの一步」の活動に戻ると、現在はコロナ禍の影響もあって具体的なイベントは自粛しているものの過去には医療業界で利用されている「もしバナカード」を使い、人生の最期に自分がどうありたいか、について考えたり話し合うきっかけをつくる「もしバナゲーム」や、紙ひもを使って「猫ちぐら」を手作りする、という「シェアCaféはじめの一步」を行ってきた。ただ、これらはまだ始まりのほんの一コマに過ぎない。それぞれのメンバーが持つ知識とスキルの引き出しは多いため、いったいどんなものが披露されるのか今から楽しみで仕方がない。

「良い情報をシェアし、そこで会話・対話をすることで、もしかしたらその人にとって思いもしなかった選択肢が出てくるかもしれない。新しい一歩が踏み出せるかもしれない。参加した人それぞれがより自分を表現できるように後押しができればいい」と柿崎さんは話した。

お問い合わせ

中村・柿崎事務所  
柏崎市半田1-3-8  
TEL 0257-24-4501  
FAX 0257-23-0461

